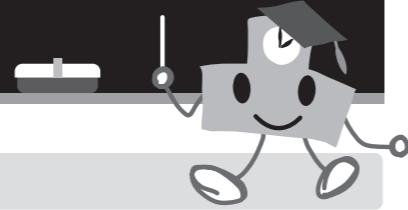


中学校の事例 手稲区 手稲中学校

卒業生から不要になった制服を回収し地域との交流が盛んに。

卒業と同時に不要になる制服を、成長期の在校生へ。PTAの協力と回収方法の工夫で地域と在校生との関わりが盛んに。



内容 不要な制服を回収 バザーで販売している

毎年9月末～10月初旬の金曜日に行われる学校祭のバザーで、制服のリサイクル販売を行っている。これは、教員同士の交流によって区内の他校の取組を知り、参考にすることで始まったものである。PTAの教養委員会が保護者の休憩室として行っている喫茶室の半分をリサイクルコーナーとして仕切って販売場所としている。1回の販売量は約2メートルのバーに3本分位。値段はすべて数百円程度として、PTAの委員が制服の状態をみて価格決定をしている。また、在庫がある場合、転入生にはバザーの日程以外でも相談に応じている。収益金は生徒に還元している。

基本的な収集方法は、卒業生が卒業時に置いていくか、町内会の回覧板で学校便りを回して取組を知らせ、登校中の在校生に渡してもらうかの2通りである。

制服だけでなく、シャツ、ジャージや柔道着なども販売している。くたびれているシャツも、PTAの委員が自宅で洗い直しアイロンがけをしてきれいにし、再利用できるようにしている。



制服のリサイクル販売

効果 需要は高く 地域との交流も盛んに

成長期なので、特に男子生徒の保護者からの需要が高く、感謝されている。販売当日は購入希望者の列ができるほどである。収集の面では、地域の回覧板で取組を紹介している効果で、不要になった制服を登校時の在校生に持たせてくれる近隣の方が増えている。

また、健全育成の場や行事に地域の方が顔を出してくれるようになった。

学校の呼びかけに応じてくれる人も多くなり、たとえばプラスバンドの地域への発表会では、250名のお客様が演奏を聴きにきてくれ、印刷していたプログラムが足りなくなるほどだった。その後も、敬老会に出張演奏をしに行ったり、逆に地域の方がお祭りの

夜の見回り隊などをやってくれたり、地域との交流が盛んになってきている。



プラスバンドの地域への発表会

課題 回収品の選定やクリーニングの徹底なども検討

現在は、PTAがボランティアで、Yシャツなどの一部を自宅に持ち帰り洗い直しをしている。衛生面等も考慮し、できるだけきれいな状態のものを集めて販売するため、クリーニング後に提供してもらえるように徹底することを検討中である。



洗濯済みの制服

注意点 PTAの協力を得て 準備も販売当日もスムーズに

教員が運営することには難しさがあるので、PTAが中心となって活動していけるよう協力を依頼していく方がスムーズにできる。時には洗濯、アイロンがけなども必要になるので、その都度相談して連携を図ることも大切である。また、販売の際は、可能な範囲でサイズごとの在庫確認を事前にできると混雑の緩和ができてよいと思われ、本校でもよりよい方法を検討中である。



保管している制服

今後 新たなリサイクル活動は土地柄を生かして

新しい活動を次々で行うよりは、リサイクルをキーワードに土地柄を生かしたスキーマのリサイクルやエコキャップ収集など、具体的に取組めるものは何かを考えている。また、広報活動にも力を入れていきたい。

リサイクル品は保管場所の問題もあるので、需要をみながら活動を充実させていくとともに開催日時を決めて1日限りでやるなど、効率的な方法を検討していきたいと考えている。



リサイクル品(エコキャップ)の保管場所

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

「自然豊かな土地で生きている生徒たちですので、身近な自然を大事にし、自分たちの住む場所をきれいに、大切に守っていくことを学んでほしいと願っています。決して構える必要はなく、自分たちを知り、将来も気持ちよく住んでいけるように普通のことをきちんとすればよいのです。使い捨てをせず、ごみを減らす努力が必要であることを理解することが理想と考えていますが、本校では、これまでに北海道警察のサポートセンターが有志を募った地域の川(三樽別川)の清掃活動には約40人、近隣のトンネルの落書き消し活動には20～30人のボランティアが生徒から集まりました。その気持ちを忘れず、素直に気持ちよく活動に取り組んでほしいものです。」(校長先生より)